

丹後地域公民館だより

電話 0772-69-0664 FAX 0772-75-2006 平成22年1月25日発行 第33号

聞き応え十分!!子ども達の発表が感動を呼びました

1月9日(土)に、丹後地域公民館において、「平成21年度第20回丹後町少年少女意見発表会大会」が実施されました。当日は、小中学生14名が、日頃の想いを立派に発表しました。つめかけた約250名の聴衆は熱心に耳を傾けていました。この日は丹後町コーラスすいせんの発表もあり、大会に華を添えました。今回はその中から、小学生の発表の要約を掲載いたします。(裏面にも続きます)



「私の心に残っていること」

竹野小学校 5年生 畑中優那

私たちの竹野小学校は、全校の人数は少ないけれど低学年も高学年も一緒にミニドッチやボッキングができたし、勉強でも先生が分かるまで教えてくれました。私も、おじいちゃんや、お父さんが卒業した竹野小学を卒業したかったです。今まで心に残っていることはたくさんあります。5年生だけど児童会の委員長になったこと、駅伝大会に向けて毎朝、グラウンドを7周、放課後2キロ走ったことなどです。私は去年、あまり低学年と遊んだりはしなかったけど、今年は1年生とも遊んだりしているので、少し高学年らしくなっているかも知れません。間人小学校へ統合したら、友達ができるのか心配です。行事がどんな風になるのか、クラスの人数も多くなり、手を上げて発表できるのかも心配です。4月からは間人小学校の6年生です。勉強もがんばりたいし、友達もたくさん作りたいです。

「私にできること」

豊栄小学校 6年生 佐々木祐奈

「あなたは望まれて生まれてきたのですよ。かけがえない、大切な人なのですよ。愛されている命なのですよ。」これは、尊敬するマザー・テレサの言葉です。もう一人尊敬しているのは、お母さんです。看護師をしていて、仕事では「緊張感が絶えない。」とよく言います。一生懸命お世話した患者さんが亡くなられた時には、悲しそうに家に帰ってきます。でも、患者さんが元気に退院され、感謝されたときには、「今までがんばってきてよかった」と思うそうです。私には貧しい人々を救う活動も、病気の人をてあてすることもできませんが、マザー・テレサやお母さんと同じように、笑顔でみんなに接することはできると気がつきました。お母さんたちのように、「命を大切にする」「人を愛する」人になっていきたいです。

京丹後市成人式について

- 日時 平成22年3月21日(日)
受付：午後1時 開始：午後2時
 - 会場 京都府丹後文化会館(峰山町)
 - 対象者 平成元年4月2日～平成2年4月1日
生まれの市内在住者及び市内中学校
卒業の方(該当の方には個別にご
案内いたしております)
- ※お問い合わせは社会教育課(電話69-0630)まで。

地域公民館の工事について

丹後地域公民館では、2月から3月にかけて改修工事を行います。施設利用などについては、公民館(電話69-0664)までお問い合わせ下さい。ご迷惑をおかけいたしますが、ご協力お願いいたします。

(裏面もご覧下さい)

「大切な友達」

豊栄小学校 5年生 溝尻寧々

1学期の終わりのころ、「友達って何か」を考えるために、話し合いをしました。その時に、いやなことがあったら、お互いにちゃんと言い合う約束をして、全員が自分の言いたかったことを、本音で話し合いました。悪かったところはおたがいに謝って、みんなで仲良く遊べるように考えました。その話し合いの後は、1人で見かけたら、声をかけて一緒に遊んでみると気持ちがよかったです。私は「友達っていいなあ。」と気づきました。学習発表会の時、練習では、みんなの息が合わなくてばらばらでした。それが、練習を重ねた本番では、みんなの気持ちを一つにして発表することができ、いっしょに喜んでくれた友達がいました。友達がいたらうれしいことが何倍もうれしくなります。これからも友達を大切にしたいです。

「丹後の海を守る」

間人小学校 5年生 中江弥生

2学期に『丹後の海を守る人々』をテーマに学習しました。そこで『下水しょ理』と『丹後の海を守る取組』について調べました。あるパンフレットには、あげものをした後の油はそのまま捨てず、いために使うとよいと書いてありました。また、川と海はつながっているため、下水処理は地味ですが、なくてはならない仕事だと分かりました。11月に、漁師さんの話を聞いたところ、海にはユーラシア大陸からもごみが流れてきており、時には冷蔵庫や自転車などもあるそうで、びっくりしました。海岸ごみを拾ったりする活動はありますが、海底のごみは漁が休みの間に漁師さんがしているそうです。今回勉強したことを多くの人に知ってもらい、丹後の海がいつまでも美しい海であって欲しいと思います。

「この6年間をふり返って」

竹野小学校 6年生 中山開斗

僕は、竹野小学校最後の卒業生です。入学したときはたった1人の1年生でした。でも、休み時間には上級生が教室に遊びに来てくれました。2年生と3年生の時は複式学級で、人数も増えて楽しくなり、グループに分かれて一緒に勉強したこともありました。4年生の学習発表会では、長い落語を1ヶ月以上かけて練習し発表した時には、大きな拍手をもらったことを覚えています。5・6年生の時には、また複式学級となりました。高学年となり、児童会の副会長、会長となりました。5年生の時は、6年生や先生に頼ってばかりだったけど、6年生になって、勉強や話し合いでは自分思っていることがいえるようになりました。また、全校みんなが仲の良い楽しい学校になるように、全校遊びなども考えました。中学校では、小学校でつけた力を生かしがんばりたいです。

「みんなおなじ」

宇川小学校 5年生 坂戸舜希

僕には同じ学年に車椅子の友達があります。初めて会った時にはびっくりしました。どうやって遊んだらいいのか、何を話したらいいのか、分からなかったので少しいやでした。その友達は、おにごっこも一緒にできないし、運動会でも見て応援するだけでした。そんなとき、僕やみんなは「かわいそうだな。」と思っていました。そこで僕たちは、その友達もおにごっこができるルールを考えました。一緒に遊ぶことができた車椅子の友達は楽しそうでした。でも僕たちはもっと楽しかったです。車椅子に乗った人はできないことが多くてかわいそうだと勝手に決めつけていましたが、みんなで話し合えば、何でもできるということが分かりました。できること、得意なことはちがうけど、みんな一緒なのだと思います。

「友達」

間人小学校 6年生 吉岡拓也

小学校の最後の学習発表会に、「南中ソーラン」に取り組みました。踊りなので最初はいやだと思いましたが、ビデオを見てみると楽しそうだったし、野球の筋カトレーニングにはちょうどいいかと思うようになりました。軽い気持ちで始めたら、結構しんどくて大変でしたが、だんだんめあての「一つの動きをみんなであわせる」に向けて、取り組めるようになりました。発表会の1週間前には、細かい動きもそろってきました。そんな時、インフルエンザにかかってしまい、学習発表会には出られませんでした。後で発表の様子をビデオで見たとき、「休んでいる3人の分も踊ります。」とってくれていました。みんなの感想の中にも全員そろって踊りたかった。」などの言葉がありました。この取り組みで友達の大切さを感じました。

「あきらめずに最後まで」

宇川小学校 6年生 大江晃介

今年もマラソン大会がありました。試走では「はあ今年も3キロ走るのか。いやだなあ。疲れるし…」と強く思いました。でも、ほんのちょっとだけ、「どうせやるなら、本気でやろうかな」と思いました。走っている途中、「疲れたな。歩こうかな」と思ったけど、やっぱり最後まで走りました。終わってタイムを聞くと、前より速くなっていました。「やればできるんだ」と思って、どんどんやる気が出てきました。大会当日には、「自己新記録を目指そう」という気持ちで走り、順位は最後のほうだったけど、試走の時より1分近くタイムを縮め、自己新記録を出すことができました。苦しくてもあきらめずに最後まで走りきることができて気持ちがよかったです。これからも、あきらめず最後までやりきることを大切にゆきたいです。